

# 職人に訊く

## 一流と目される仕事を 顧客と固い信頼関係を築く

地域に生きる●職人に訊く●技から伝わる心意気



ゲスト 穂積 隆信

GUEST INTERVIEWER

焼付塗装という特殊な塗装を専門に手掛ける「藤本塗装」。確かな技術力に加え、どんな仕事にも真摯に取り組む姿勢は、多くの顧客から支持されている。藤本社長は「お客様との信頼関係が何より大切です」と語る、責任感溢れる職人だ。本日は、穂積隆信氏が藤本社長とご子息の昌司氏にお話を伺った。



穂積 企業は人なりということで、まずは藤本社長のこれまでの歩みからお聞かせ下さい。  
藤本 私は若いころから車が好きでしたね。趣味が高じて自動車整備の仕事に携わっていました。あるとき、私が勤めていた整備工場に入っていた塗装業者が突然いなくなっちゃったんです。「これでは自動車の塗装ができない。どうしたものか……」と皆で頭を抱えてしまいました。しかし、お客様から車をお預かりしているのですから、当然きれいに塗装してからお返しせねばなりません。そこで、私が見よう見まねで塗装を担当したのです。趣味で自分の車を塗装した経験はありましたが、お客様の車となると失敗は

許されない。緊張しましたし、大変でしたね。当時は、とにかくやり逃げなければ、との思いで一心不乱に作業に没頭しました。しかし、まさかそれが本業になるとは思ってもいませんでした。  
穂積 必要に駆られて塗装の世界へと足を踏み入れられたわけですね。実際に塗装をされてみてどのような変化が？  
藤本 徐々に塗装の魅力に引き込まれていきましたね。もっと塗装の技術を磨きたいとの思いから、色々と自分でも勉強するようになりました。そこで、刷毛でペンキを塗る工業用塗装の存在を知ったのです。それで別の工場に転職し、工業用塗装の技術を学ぶことにしました。そうして経験を積んだ後「藤本塗装」をスタートしたのです。

穂積 「藤本塗装」さんが専門とされている、焼付塗装とはどのような塗装なのでしょう？  
藤本 焼付塗装というのは、簡単に言うと工業用塗装の一つとして、塗料を短時



「たとえ赤字になっても  
お客様との信頼関係が築けるなら  
喜んで依頼をお受けします」

COMPANY PROFILE  
焼付塗装  
**藤本塗装 株式会社**  
兵庫県朝来市山東町柴 99 の 6  
TEL 079-676-2113



代表取締役 **藤本 重伸**  
〈これまでの社長の歩み〉  
兵庫県出身。車好きが高じて自動車整備工場に勤める。あるとき自動車塗装を手掛けたことがきっかけで、本格的に工業用塗装について学び始めた。その後、焼付塗装の技術を積み、「藤本塗装」をスタート。現在に至る。

TOP INTERVIEW



ご子息 藤本 昌司

間乾燥させることができる塗装方法です。工業界では幅広く利用されており、市場も広いんですよ。もちろん他の塗料とは違いがありましてね。塗料は焼付専用のもを使用し、各塗料ごとに焼付温度や時間が決まっているんです。それらの規定時間を守ってしっかりと焼付・乾燥した塗膜は、即使用可能で、設計通りの強靱な仕上がりになります。  
穂積 ほう。知識はもちろん、相当な技術が必要でしょうね。  
藤本 ええ。塗装の仕事は身体で覚えなるとできるようになりません。腕の動きや姿勢のとり方、目配り、どれ一つとして欠けてはならない要素。これらは口で伝えようとしてもなかなか伝わりません。だから一人前になるには、時間と努力、経験が必要なんですよ。  
穂積 独立してからこれまでを振り返ってみていかがですか？

藤本 独立当初は本当に忙しく、日曜日であっても仕事をしていました。辛かったです。求めて下さる方がいるというのは幸せなこと。その期待を裏切ることのないよう、当社ではどこにも負けない高品質の製品を納期内にきっちり納めるとい、当たり前のことを徹底してきたのです。ありがたいことに多くの方から依頼をいただき、現在まで順調に歩を進めることができました。皆さんが私どもを信用して下さったからこそその成長です。感謝の思いが絶えません。  
穂積 社長は人との信頼関係を大切にしていってらっしゃるんですね。  
藤本 (昌) 父は職人気質な人間でありながら、お客様との関係を大切にしています。例えば、単価の良くない仕事であっても、その依頼に対してベストを尽くすのです。その結果、お客様との信頼関係が築けるのならば、そちらの方が大事だと考えているんですよ。私も父のそういう考えに倣いたいと思います。  
穂積 では今後の展望をお願いします。  
藤本 お陰様でたくさんの依頼をいただいております。作業場が手狭になってきているので、この先は敷地を拡充して益々多くのニーズに応えていきたいと思っています。また、この業界はお客様の信頼が全て。今後も一つひとつの作業を丁寧に行い、皆さんの期待以上の仕事をしていきたいと思っています。  
穂積 陰ながら応援しています。  
(取材 / 2009年6月)

### 一意 専心

愛情を込めた厳しさが  
真っ直ぐな人間を育てる

「藤本塗装」のスタッフを牽引する藤本社長は、独立当初、休みを返上して仕事に勤しんできた努力家だ。まだ幼かったご子息の昌司氏を職場へ連れて出勤した日もあったという。そんな父親の姿を間近で見て育ってきた昌司氏は、ある日「明日から入社するから」と告げ、現在、社長とともに汗を流している。しかし仕事では「見て覚える」という、厳しい姿勢で指導に当たっている社長。「二代目として会社を牽引してもらわなければならないのですから、当然です」との言葉には、仕事に対する責任感とご子息への愛情が垣間見える。だが2人の間に家族だから、という甘えは決してない。職人としての真っ直ぐな姿勢は、社長から2代目へと確実に受け継がれているのだ。同社が築いてきた顧客との信頼関係は、これからも変わらず続いていくだろう。

### 能工 巧匠